

3年2組 国語科学習指導案

場所 3年2組教室

1 単元名 食べ物ずかんをつくろう

2 教材名 「すがたをかえる大豆」 国分 牧衛
「身近な食べもののひみつ」 幕内 秀夫 / 神 みよ子

3 単元のねらい

【関心・意欲・態度】

- ・食べ物の加工の工夫と、それによる変化について書かれた読み物や図鑑を、興味をもって読もうとしている。
- ・読み手の興味・関心を引くために、「中」の段落の順番を工夫しようとしている。

【読むこと】

- ・大豆の加工の工夫と、それによる大豆の変化について、接続語や調理に関する言葉などに着目して的確に読み取ることができる。
- ・「中」の段落の順序性について筆者の意図を考えながら読み取るとともに、教材で提示された以外の順序について、根拠をもって提案することができる。

【書くこと】

- ・食べ物図鑑において、「中」の事例を意図的に配置し、「調理に関する言葉・作り方・できた食品」の3つの内容に沿って書くことができる。
- ・グループ交流会を通して、「中」の配列について、自分の考えを明確にして意見を述べ合うことができる。

4 単元における主な言語活動 小学校学習指導要領解説 国語編 p 66より

「読むこと」の言語活動例のイ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用する言語活動
観察や調査したことなどを記録したり報告したりした文章を読んだり、図鑑や事典などを利用したりする言語活動である。

いずれも課題を解決しようと調べるのに必要な本や文章である。「第3指導計画の作成と内容の取扱い」1の(5)「本の題名や種類などに注目したり、索引を利用して検索をしたりするなどにより、必要な本や資料を選ぶこと」に配慮することが必要である。

5 本単元のねらいに関わる学年の児童の実態

(1)関心・意欲・態度(:できている :課題である)

1学期の単元「順番を工夫して書こう」では、自分の選んだ3枚の写真の順番を自分なりの考えをもって工夫して並べ替える姿が見られた。

「もっと違う順番はないか」と新しい考えを生み出す意欲が不十分な児童もいる。

(2)読むこと(:できている :課題である)

1学期の単元「まとまりに気を付けて読もう」では、「段落」という用語を覚え、「はじめに」「次に」等の接続語を手がかりに、実験や研究内容、結果を読み取ることができた。

「中」の順序性を意識することはできるようになったが、その順序性に込められた筆者の意図を読み取ることについては不十分である。

(3)書くこと(:できている :課題である)

1学期の単元「順番を工夫して書こう」では、3つの説明カードを入れ換えながら、それに合うように「まず」「次に」「最後に」などの接続語を置き換えることができた。

相手意識をもって順序性を考える意識が弱いため、考えた順番について「なぜ、その順番にしたか」という根拠を述べることが十分ではない。

6 研究テーマに関わって

(1)学習のユニバーサルデザイン化

食品の実物写真などの提示

- ・「中」の5つの工夫を読み取るために、キーワードとなる言葉とともに、加工してできた食品の実物写真をセットにして掲示する。
順序性を意識させる学習プリントの工夫・取り外し可能な説明カードの活用
- ・「中」の順番を意識するために、学習プリントでは「つなぎ言葉など」の欄を設ける。
- ・順番を入れ替える時に、接続語も同時に入れ替えができるように、取り外しができる説明カードを使用する。
グループ交流の位置付け
- ・「中」の順番を検討する際に、グループ交流を位置付ける。

(2)協同的に学び合う学習集団の育成

グループ交流の仕方の指導

- ・本単元では、「中」の順番を検討する際にグループ交流を位置付ける。その時、互いの考えが深まるように、「司会進行表」を活用して、話し合いの流れを習得させる。
- ・提案者、司会者、助言者のそれぞれが交流会での視点をもって臨めるように、「交流会の視点表」を活用し、話し合いを活発化させる。

(3)言語活動の充実を目指した単元指導計画の在り方

指導事項及び言語活動を系統的・発展的に配置した年間指導計画(年間)

- ・1学期は、「段落の順番を意識すること」に重点をおいて、単元「順番を工夫して書こう」の学習をした。その際に、時間的羅列ではない順番があることを知り、段落の順番の並べ替えを実践した。本単元では、「段落の並びには筆者の意図があること」を理解させ、自分の提案する「中」の配列の順序性に根拠をもたせたい。
第3次を中心とした言語活動の充実(各単元)
- ・第3次では、自分の書きたい食材を選んで食べ物図鑑を書く。その際、「中」の事例はなぜこの順番なのか、配列に意図をもたせて書く。
- ・グループ交流で、各自が考えた「中」の配列の順番について話し合う。そして、仲間から助言を受けることで、自分が考えた以外の、新たな順序の視点について学ぶ機会とする。
- ・完成した「食べ物ずかん」を低学年の友達に紹介することで、他者評価を取り入れ、読み手を意識して内容や順番を構成する楽しさを味わわせる。
習得・活用のサイクルを生み出す系統的・発展的な単元構成(各単元)
- ・第2次で教材「すがたをかえる大豆」の読み取りを行い、「筆者の意図によって『中』の順番が工夫されていること」を習得する。この習得した内容を活用して、第3次の自分が選んだ食材について図鑑を書く活動で、読み手を意識した順序で「中」の事例を配列する。

(4)協同的な学び合いを通して、読みや表現を深める授業の在り方

児童が見通しと願いをもち、学習を振り返る場の設定

- ・学習の見通しをもたせるため、1学期の単元「順番を工夫して書こう」で、「中」の並べ方を工夫した経験を想起させる。
- ・グループ交流後は、「交流による自分の考えの変容」をとらえる場を設定する。

②言語活動の充実を目指した工夫改善

- ・工夫改善の1つ目は、「独立した段落の拡大札の提示」である。「中」の事例を拡大して札にし、黒板に提示することにより、「中」の事例の順序性に視覚的に気付きやすくした。
- ・工夫改善の2つ目は、「グループ交流におけるホワイトボードの活用」である。ホワイトボードを活用することで、考えた順序がひと目見て分かり、交流しやすくなると考えた。
協同的な学び合いを生み出す指導・援助
- ・本時の展開後段で、「熟考・評価型の発問」をする。「他には、どんな順番が考えられますか」という発問である。この発問をすることで、児童は「中」の順序性に対する自分の考えをもつことになる。そして、「『中』の事例は筆者の意図によって並べ方が工夫されていること」に気付く。この発想が、第3次の食べ物図鑑作りの、事例の並べ替えで生きてくるはずである。

(5)他の活動との関連

家庭学習での日記

- ・毎週1回の日記で、同一テーマで3つ以上の材料を取り上げ、その並びを工夫して書く。

7 単元指導計画(全18時間)

時	主な学習活動	指導・援助
1	大豆に関する知識を確認した後、本時の課題を確認する。 単元の目標を確かめ、学習の見通しをもとう。 本文を音読する。 感想を書き、全体交流する。 「食べ物ずかん」作りに向けて、学習の見通しをもつ。	大豆の実物を用意し、単元への興味・関心を高める。 学習の見通しをもつために、学習の流れを掲示する。また、食べ物図鑑の完成品を提示して、図鑑作りへの意欲を喚起する。
2	本時の課題を確認する。 本文を「はじめ」「中」「終わり」の3つに分けよう。 「はじめ」「中」「終わり」に分け、全体交流する。 「はじめ」「中」「終わり」のはたらきを考える。 物語教材「大きなかぶ」の登場人物の登場順を全体交流する。 自分で考えた順番について、グループ交流する。	段落の構成を学ぶために、既習教材「ありの行列」を用い、接続語等に注目させる。 既習教材「大きなかぶ」を用い、筆者の意図を考えて順番を全体交流で検討する。 自分の考えをもつために、登場人物の登場順について考え、検討する。
3 ・ 4	本時の課題を確認する。 大豆をおいしく食べるためには、どのような工夫があるか、読み取ろう。 個人追究の後、全体交流をする。 国語辞典で「いる」「にる」「ひく」「すりつぶす」「しぼりだす」の意味を調べる。 大豆の工夫の意味を、写真と照合して全体で確認する。	「いくつの工夫がありますか。」と質問することで、「工夫」という言葉に着目させる。 見つけた大豆の加工の工夫や食品について写真と言葉を一致させて提示する。 見つけた工夫の言葉は常時掲示し、自分で調べる際のヒントにする。
5 本時	本時の課題を確認する。 「中」の順番はどんな順番で並んでいるか、読み取ろう。 教科書の「中」の順番について全体交流する。 個人で「中」の順番を考え、グループ交流する。	「順番には、筆者の意図があること」に気付くために、教科書の順番について考える。 自分の考えた順番にも意図をもてるように、その理由を考える。
6 ・ 7 ・ 8	本時の課題を確認する。 自分の作りたいずかんの食材を決め、せつ明カードの作り方を知ろう。 牛乳・卵・小麦・米などの中から決める。 メモカードを使って、情報の取り出し方を学ぶ。 メモカードをもとにした説明カードの書き方を学ぶ。	メモカードを使って、本のどこに着目し、情報をどのように取り出すかを、「魚」をモデルにして、全体指導する。 説明カードは、「接続語、調理に関する言葉、作り方、食品」の4点で書くことを指導する。
9 ・ 10	本時の課題を確認する。 自分の決めた食材についてせつ明カードを書こう。 本から必要な情報を取り出し、メモカードに記録する。 メモカードをもとに、説明カードを書く。	本からの情報を取り出すことに苦労している児童には、着目する部分を朱書きなどにより支援する。 必要に応じて、穴埋め式の説明カードを用意し、選択できるようにする。
11	本時の課題を確認する。 自分の書いたせつ明カードの「中」の順番を考えよう。 順番を決め、その理由を書く。	自分の意見に根拠をもつために、学習プリントに、理由を書く欄を設ける。
12	本時の課題を確認する。 グループ交流の仕方を知り、自分の書いたせつ明カードの「中」の順番について話し合おう。 モデルグループの発表を見て、交流の仕方を学ぶ。 グループの説明カードを読み、助言を考える。	交流会の流れを提示する。 提案者、司会者、助言者のどの立場でも意欲的に話し合いに参加できるように、「交流会の視点表」を提示する。
13 ・ 14	本時の課題を確認する。 自分の書いたせつ明カードの「中」の順番について話し合おう。 2人が提案し、グループ交流する。 交流の振り返りをする。	話し合いを通して、考えが深まっていった跡を残すために、提案者・助言者、それぞれの立場で振り返りをする。
15 ・ 16 ・ 17	本時の課題を確認する。 自分の書いたせつ明カードの「中」の順番を決めて、食べ物ずかんを書こう。 「中」の順番を決定する。 図鑑の書き方を知り、絵や写真を入れて、図鑑を書く。	図鑑の書き方について、「魚」をモデルにして全体指導する。 「中」の内容に合った写真や絵を入れながら、図鑑を書くことを指示する。
18	本時の課題を確認する。 すいこうの仕方を学び、ペアですいこうしよう。 推敲の仕方を学び、ペアで推敲する。 作品について、自己評価、他者評価する。	推敲の視点を提示する。 自己評価に加え、他者評価を入れることで、順番を工夫して書く楽しさを実感する。

8 本時のねらい

- ・「中」の部分の、～段落(P23.L7～P25.L6)を読み、「筆者が読み手を意識して、事例の配列を工夫していること」に気付き、「事例が分かりやすいものから意外なものに並んでいること」を読み取ることができる。
- ・教材の「中」の事例の配列とは違う配列を考え、自分の意見と根拠をもつことができる。

9 本時の展開(5/16)

過程	主な学習活動	指導・援助
つかむ	<p>本時の課題を確認する。</p> <p>課題：「中」の順番はどんな順番で並んでいるか、読み取ろう。</p> <p>P23.L7～P25.L6を音読する。</p>	<p>1学期の学習の「順番を工夫して書こう」でも同じ内容を学習したことを説明し、配列に関する学習を想起させる。</p> <p>段落は例外的な内容の段落なので、本時は扱わないことを説明する。</p>
広げる	<p>読み取ったことを全体交流する。</p> <p>Aさん：分かりやすいものから、分かりにくいものへと並んでいると考えました。わけは、段落に「いちばん分かりやすいのは」とあるからです。</p> <p>Bさん：より意外なものへと並んでいると考えました。なぜなら、段落に「意外と知られていません」とあるからです。</p> <p>「中」の配列意図を考え、発表する。</p> <p>Cさん：分かりやすい例から紹介しているので、筆者は読む人に分かりやすくしたかっただと思います。</p>	<p>全体交流の前に、前時に各自読み取った内容を確認する時間を確保する。操作活動が可能ないように「独立した段落の拡大札」を用意し、黒板に提示し、順序性を考える手がかりにする。具体的には、「段落名 できた食品 おいしく食べる工夫 つなぎ言葉 写真」の順で、4つの段落の札と項目名の札を貼る。</p> <p>教師が「これらの4つの例は、あるきまりにそって並んでいます。どんな順番で並んでいますか。」と問いかける。</p>
深める	<p>教科書とは別の並べ方を考え、プリントに書く。グループ交流をする。</p> <p>提案者Dさん～提案～</p> <p>しょうゆ等 豆腐 きなこ いり豆 「意外なものから並べ始める順」にしました。その理由は、大豆の形でないしょうゆやみそから入ったほうが、心に残るからです。</p> <p>提案者Eさん～提案～</p> <p>いり豆 しょうゆ等 きなこ 豆腐 「色で並べかえる順」にしました。その理由は、同じ大豆でも色が違っているから意外な色からのほうが、おもしろいからです。</p> <p>司会者Fさん ・みなさんは今の意見を聞いてどう思いますか。 ・この並べ方をすると、読む人にとってどんないいことがありますか。</p> <p>助言者Gさん Dさんの「意外なものから並べ始める順」がいいと思いました。その理由は、大豆の形が変化していく様子がよく分かるからです。</p>	<p>ここで「熟考・評価型の発問」をする。「他には、どんな順番が考えられますか」と発問し、自分の考えをもたせる。自分の考えを明確にもたせるために、自分だったらどの順番で並べるか、挙手をさせて確かめる。その際、なぜそう考えるのか理由を述べるようにする。</p> <p>相手意識をもたせるため、ホワイトボードを利用して指をさしながら話すこと、大きな声ではっきりと話すことを指示する。交流中、教師は各グループを回り、司会の進行を補佐する。また、自分の考えを述べるように声をかけていく。</p>
まとめ	<p>交流の振り返りをする。</p> <p>Dさん：Eさんの意見を聞いて、読む人に大豆の意外な変化を知ってもらうために色に着目することが分かった。</p>	<p>学びの深まりを実感させるため、Dさんを指名し「グループ交流を通して、自分とは違う新しい配列の順番に気づくことができたね」とほめる。</p>